

入学者選抜におけるWeb出願システム「G-smart」の活用状況について

1 G-smart 導入の目的と運用上の留意点

志願者、保護者、中学校及び高校の教職員の利便性を高めることを目的とし、システムの運用に当たっては、特に以下の点に留意する。

- ・システムに起因して希望する高校を受検できないなどの事態を招くことがないようにする。
- ・先行導入自治体の運用状況を踏まえて、より強固で安全なシステムとなるようにする。
- ・教員向け説明会、志願者向けリーフレット、志願者及び教員向け操作説明動画など、受検者、保護者、中学校及び高校の教員にとって分かりやすいシステムとなるようにする。

2 G-smart により可能となったこと（主なもの）

(1) 提出書類の一元的なデータ管理

これまで受検者や中学校が紙で作成し、中学校の教員が志願先高校へ手交していた書類（入学願書、インタビューシート、調査書など）について、デジタルで一元的な管理が可能となった。

(2) 受検料のキャッシュレス決済

これまで受検者が県証紙や払込書で納付していた受検料について、キャッシュレス決済が可能となった。決済手数料については、保護者負担軽減の観点から高校を設置する教育委員会が負担することとした。

(3) 個人端末からの合否結果確認

これまで合格者受検番号一覧の学校掲示やWeb掲載を行っていたが、合否結果を受検者が個別に確認することが可能となった。中学校では、受検者全員の結果を一覧で確認することが可能となった。

3 G-smart の活用状況

(1) 成果

- ・G-smart が原因となったトラブル等は報告されておらず、導入は円滑に進んだ。
- ・入学者選抜に関わる業務を効率化することができた。

(2) 課題

- ・一部の中学校では、志願者や保護者からの問合せへの対応など、教員の負担が増加した。

4 G-smart の改善に向けた対応

以下の対応を行い、結果を踏まえて、G-smart がより使いやすいシステムとなるよう改善を図る。

- (1) 受検者（新1年生）及び保護者、中学校及び高校の教員、市町村教育委員会等へのアンケートを実施する。
- (2) 中学校長会及び高等学校長協会への聞き取りを行う。